

# 県、実効性ある指導せず

## 八国見山 生物多様性「復元」で 霊園開発

秦野市渋沢の八国見山(319㍍)南面区域の大規模霊園開発問題で、県が林地開発許可に関する県森林審議

会の答申に盛り込まれた付帯事項について、開発業者に実効性のある指導をしていなかったことが分かった。付

帯事項では「生物多様性の復元に最大限配慮する」との条件が示されたが、県はこれを実

現するための具体的な対策を求めておらず、反対派の市民グループから「生物多様性の保全について理解していない」との批判が上がっている。

八国見山の開発を巡っては、県森林審議会が黒岩祐治県知事に開発許可を答申する際、「開発後は貴重な動植物の生育環境を保全するなど、生物多様性の復元に最大限配慮する」との付帯事項を設けた。市民グループ「渋

沢丘陵を考える会」「日置乃武子代表」と「丹沢フナ党」(梶谷敏夫代表)は、付帯事項を守り生物多様性の保全について実効性のある指導を行うよう、3月に黒岩知事に要望書を提出。4月2日付で県から回答書を得た。

回答書には「重要植物の移植方法、猛きん類の繁殖への配慮、事後モニタリングや専門家の意見を聞いた環境保全対策の実施などを具体的に指導した」と記されていたが、付帯事項にある「復元」についての対策を求めた市民グループの要望には答えていなかった。

2グループは「移植が難しい貴重植物もある。県は生物多様性の保全について全く理解しておらず、指導はその場しのぎでしかない」と訴えている。こうした批判に対し、県水源環境保全課は「厳しい要請は土地所有権の侵害につながる恐れがあり、付帯事項に沿ったぎりぎりの指導をした」としている。【高橋和夫】